

コミュニティシネマセンター日本映画巡回企画

松竹キネマ 90 周年記念

女優王国—松竹を代表する10人の女優たち
喜劇映画の異端児 渋谷実監督特集

巡回のご案内

1920年の松竹キネマ合名会社にはじまる「松竹映画」は、2010年に90周年を迎えました。これを記念して昨年秋、松竹では「ゴールデン・クラシック 1950 松竹黄金期の三大巨匠」と「女優王国—日本が恋する女優たち」のふたつの特集上映を開催しました。

今回、巡回するのは、この特集を全国巡回用にアレンジしたもので、「女優王国—松竹を代表する10人の女優たち」と「喜劇映画の異端児 渋谷実監督特集」の二企画です。

映画の黄金期を彩る女優たちの作品と、小津安二郎、木下恵介とともに松竹の「三大巨匠」とよばれた渋谷実監督作品による魅力的なプログラムです。

多くの会場で上映してくださいますよう、よろしくお願いします。

松竹キネマ 90 周年記念
「女優王国—松竹を代表する10人の女優たち」
「喜劇映画の異端児 渋谷実監督特集」

主催:一般社団法人コミュニティシネマセンター

共催:東京国立近代美術館フィルムセンター(予定、渋谷実監督特集のみ)

協力:松竹株式会社

巡回期間:2011年夏頃～2013年3月頃を予定しています。

- 上映団体は次ページの巡回作品の中から自由に作品を選ぶことができます。
- 上映希望作品、上映希望日程をお知らせいただき、調整の上、確定します。
- 映画料は、作品、上映形態によって多少異なりますのでお問合せください。
- ここに挙げている作品以外の作品を上映したい場合にもお問合せください。
- 上映に当っては、芸術文化振興基金による「国内映画祭等の活動」への支援(申請受付 6月 27 日(月)～ 7月 1 日(金))を受けることが可能です。

<http://www.ntj.jac.go.jp/kikin/boshuu/old/23-bgaiyou/23-bgaiyou.html>

詳細につきましては、コミュニティシネマセンターまでお問合せください。

コミュニティシネマセンター 050 3535 1573 www.jc3.jp

巡回作品(変更になる場合があります)

女優王国—松竹を代表する10人の女優たち

田中絹代、原節子、岸恵子、岡田茉莉子…、“女優王国”といわれた松竹映画の歴史を彩るスター女優たち。松竹映画を代表する10人の銀幕女優たちを10本の映画でご覧いただきます。

- 1 愛染かつら（総集編）1938 **田中絹代** 監督:野村浩将
- 2 按摩と女 1938 **高峰三枝子** 監督:清水宏
- 3 安城家の舞踏会 1947 **原節子** 監督:吉村公三郎
- 4 醜聞（スキャンダル） 1950 **山口淑子** 監督:黒澤明
- 5 本日休診 1952 **岸恵子/淡島千景** 監督:渋谷実
- 6 君の名は（総集編） 1954 **岸恵子** 監督:大庭秀雄
- 7 東京暮色 1957 **原節子/有馬稻子** 監督:小津安二郎
- 8 ゼロの焦点 1961 **久我美子** 監督:野村芳太郎
- 9 山河あり 1962 **高峰秀子** 監督:松山善三
- 10 秋津温泉 1962 **岡田茉莉子** 監督:吉田喜重

喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集

松竹の「三大巨匠」として、小津安二郎、木下恵介に並び称せられる渋谷実監督。2010年の東京フィルメックスでも8作品が上映され話題を集めた渋谷監督の代表作10本を巡回します。

- 1 奥様に知らすべからず 1937 斎藤達雄、岡村文子 ※フィルムセンター提供
- 2 自由学校 1951 佐分利信、高峰三枝子、淡島千景、佐田啓二 原作:獅子文六 ※予定
- 3 本日休診 1952 柳永二郎、鶴田浩二、淡島千景、三国連太郎、岸恵子 原作:井伏鱒二
- 4 現代人 1952 池部良、山田五十鈴、山村聰
- 5 正義派 1957 佐田啓二、久我美子 ※フィルムセンター提供
- 6 気違い部落 1957 伊藤雄之助、淡島千景
- 7 悪女の季節 1958 東野英治郎、山田五十鈴、岡田茉莉子
- 8 もず 1961 有馬稻子、淡島千景 原作:水木洋子
- 9 バナナ 1960 津川雅彦、岡田茉莉子、尾上松緑 原作:獅子文六
- 10 好人好日 1961 笠智衆、岩下志麻、淡島千景

渋谷実 しぶやみのる

1907年東京浅草生まれ。慶應大学英文科に入学するが病により中退。30年、松竹蒲田撮影所で牛原虚彦監督の見習い助手を務めた後、正式入社。成瀬巳喜男、五所平之助監督につく。37年『奥様に知らすべからず』で監督デビュー。4作目の『母と子』(38)がキネマ旬報ベストテン3位入賞。戦後、四国独立運動の顛末を描いた獅子文六原作の『てんやわんや』(50)で世相を反映した人間喜劇という独自の作風を確立。以後、『自由学校』『本日休診』『現代人』『やつさもつさ』など喜劇映画の秀作を発表、全盛期を築く。小津安二郎、木下恵介とともに「三大巨匠」と呼ばれた。その作風は、川島雄三、前田陽一らに受け継がれている。1980年12月20日永眠。